

町おこしの秘訣～咲洲ウェルネスタウン計画～

社会班：川添陽也 鈴木太智 高下朋也 西埜伊織 吉野実

1. はじめに

南港は大規模な開発が行われたのにもかかわらず、あまり活気があるというイメージがない。南港をどのようにすれば、活気のある街にできるかを研究することにした。

2. 調査方法

(調査 1)

高津高校の普通科 3 クラス (120名) を対象に南港についてのアンケートを実施。アンケート内容は以下のとおり。

南港について

LC II 社会系

1. 南港に行ったことがありますか？(右の欄内にお答えください)

① はい ② いいえ

はいと答えた人に質問です

・何回行ったことがありますか？

① 1回 ② 2~3回 ③ 4~5回 ④ 6回以上

・何が目的で行きましたか？

① フェリー乗船 ② コンサート・イベント
③ 買い物 ④ その他

その他と答えた人は () にお書きください

()

・誰と行きましたか？

① 家族 ② 友達 ③ 一人で ④ その他

その他と答えた人は () にお書きください

()

裏に続きます (地図もあります)

2. 南港にどんなイメージを持っていますか？

① イベント会場 ② 港 ③ 寂れている ④ 楽しそう

⑤ ショッピングモール ⑥ よく分からない ⑦ その他

その他と答えた人は () にお書きください

()

3. 南港で知っている場所があればその名称を書いてください

()

ご協力ありがとうございました。



(調査 2)

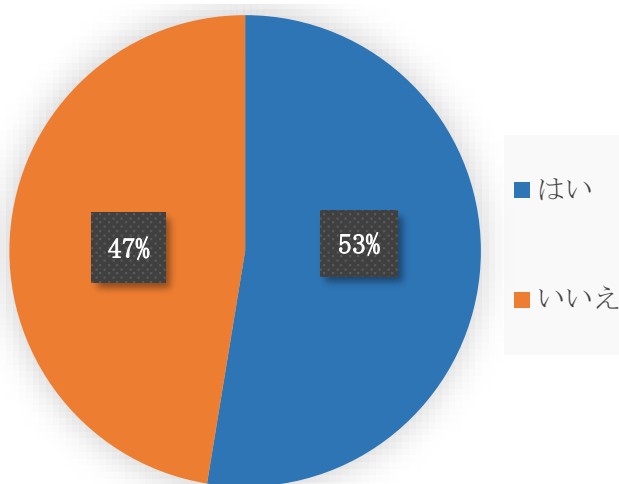
実際に南港に行って町おこしのプロジェクトチームに話を伺う。

3. 調査結果

(調査1)

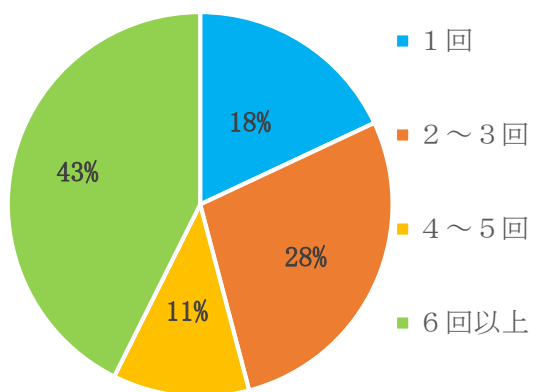
私たちが予想していたよりも多くの人たちが南港へ行ったことがあった。
しかし、その人数が多いわりには南港に対するイメージに良い印象を持っている人が少なかった。

南港に行ったことがあるか

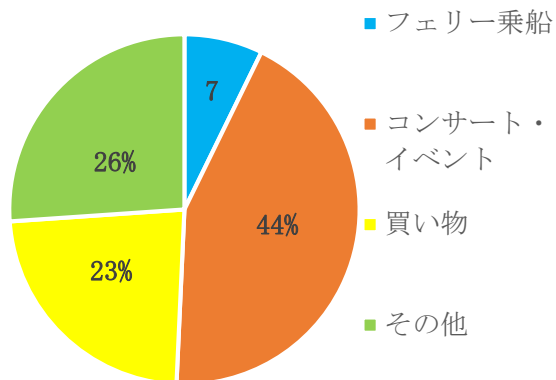


(有効回答数 116 票)

行った回数

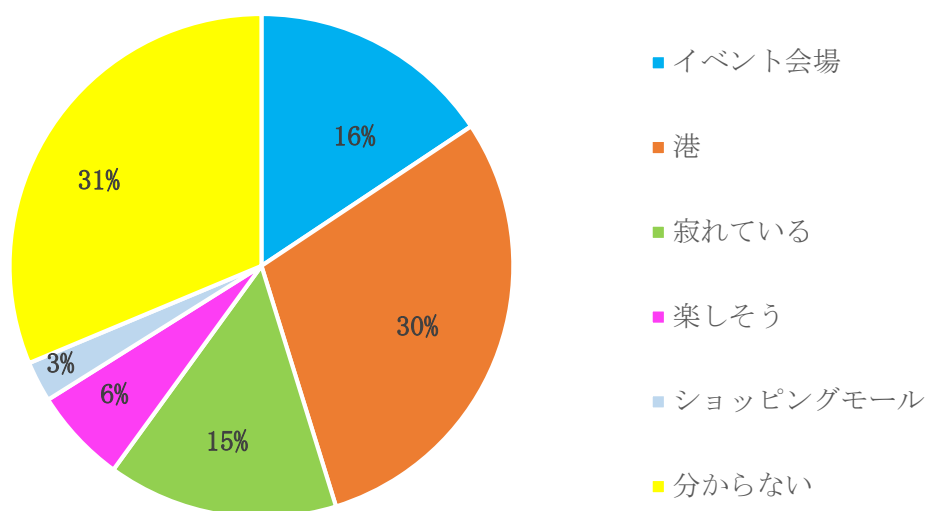


目的



(有効回答数 61 票)

南港のイメージ



(調査2)

私たちは、南港での生活の実態を調べるべく、実際に南港で町おこしに関するプロジェクトを行っていらっしゃる「ナンコウスタイル」さんにお話を伺うことになった。

私たちは、一月に開催されたDIYマーケットに伺い、プロジェクトチームの皆さんや、街の人々にお話を聞かせていただいた。お話を伺ううちに、私たちと南港に住む人々の間に、大きな認識の違いがあることがわかった。

私たちははじめに、ポートタウンに住む人々が、実際に自分たちの町に活気が無いと感じているのかを聞いてみると、町の人々は、「そんな風には感じないが、外の人々には寂れているように見えるようだ。」と仰っていた。

このような認識のズレは、南港ポートタウン以外のニュータウンでも起こっているらしく、住民の循環が不十分であることに起因するものだと考えられている。

町の知名度が低いため、新たな若い家族が住み着かず、町全体が高齢化していつてしまうのが、外の人から活気がないようにみられてしまう要因と考えられる。

コンビニや量販店が少ないのは不便ではないかという質問に対しては、「そんなに不便に感じたことはない。必要を感じたら車ですぐに難波などの繁華街に行くことができ、南港という土地の位置上、県外にも比較的短時間で行くことができる。」と仰っており、生活をする上で店舗の不足で困ったことは無いようであった。

プロジェクトチームのリーダーである原さんは「緑に溢れ、車も通らないので子供たちが安心して遊べるとも素晴らしい環境なのに、住民の新陳代謝がうまくいっていない。若い人々への知名度が足りず、新しい世帯を呼び込めていないのが衰退の原因だと思っている。若い人たちに街に居付いてもらう為の工夫が必要だ。」と仰っていた。実際に私たちが南港を調査していて感じたのは、私たちが最初に持っていた「人

が少ない場所は閑散としていて、活気がない」という先入観とは正反対のにぎわいがあって住人同士のコミュニケーションも深く、とても暖かみのある場所だということだった。やはり、南港を人の集まる場所として盛り立てていくには、施設や環境の充実化よりも、今ある南港の美しい姿をいかにして多くの人々にPRしていくかが重要であると、私たちは考えた。

4. 考察

町おこしに必要な条件は、施設や環境の充実より、その場所がどういう場所であるかを人に知ってもらうための情報発信力ではないか。

5. 結論

- ・良い環境が揃っていても、知られていなければ意味がない。
知名度は町興しに欠かせない要素である。
- ・町の内側からと外側からでは見え方、考え方には大きな違いがある。
→ SNSで高度に結びつく現在でも、実際に行って、見て、話を聞くことは重要。

6. 参考文献

プロジェクトチーム「ナンコウスタイル」原 太雅氏

大阪市住之江区役所「咲洲ウェルネスタウン計画」資料

<http://www.city.osaka.lg.jp/suminoe/cmsfiles/contents/0000306/306810/keikaku01.pdf>